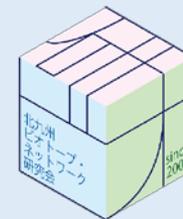




北九州市における市民参加型の 竹林・里山の整備と副資材の利活用

特定非営利活動法人 北九州ビオトープ・ネットワーク研究会



目
的
手

- 市民参加による定期的な保全活動により里山の元気を取り戻し生物多様性の保全、斜面崩壊等の自然災害の抑制、自然景観の再生を図る
- 地域の団体や企業と協働による環境学習や地域文化支援の展開
- 伐採竹を資源と考えた第六次産業化の推進
- 里山におけるネイチャーポジティブ(自然再興)の推進



法
考
察

調整サービス	文化的サービス	基盤サービス
市民が気軽に参加できる毎月の竹林・里山保全活動	児童を対象とした竹細工教室や門松や竹灯籠など文化的利用	竹や土など自然素材のみを使った法面緑化材、舗装材
 	 	 

- 様々な団体と協働し、竹の多面的活用を図ることで、自然環境に関心の低い人へのアプローチができた。
- 地元の建設事業者とマッチングできたことはものづくりのまち北九州らしい取り組みとなった。
- 活動を継続することで成果は大きくなるため、活動の仕組みや人材育成はこれからの課題である。
- 竹の活用展開の可能性は大いにあり、需要の拡大により里山保全も促進できる。

ま
と
め

全ての活動のベースとなる毎月の竹林保全活動は2003年より開始し、里山の生態系や自然景観再生等に寄与してきた。生物多様性の保全から始まり、活動の多様性と参加の多様性をさらに図り、まちの強みを活かした課題解決は続く。